

# パレット



～認める 支える 分かち合う 個性かがやく参画社会～

佐野市男女共同参画都市宣言キャッチフレーズ

## G7 栃木県・日光子ども未来サミット宣言書 2023 ～男女が共に輝く社会を実現するために今、わたしたちができること～

性別にかかわらず、だれもが共に輝く社会を実現するために  
私たちは次のように行動していくことを誓います。

### I 家庭・家族について

私たちは、

- ・立場や役割についての固定概念を取り払い、それぞれの家庭や家族の個性を活かしながら生活します。
- ・家族のことであっても、ときに地域に助けをもらいながら、また困っている人がいれば助けながら暮らします。
- ・いつかイクメンやカジダンという言葉がなくなり、それが当たり前の社会を作ります。

### II 仕事・職場について

私たちは、

- ・一人ひとりの多様性を尊重しながら働くために必要な知識を、学びと経験を通して深めます。
- ・社会に出たとき、みんなが安心して育休を取得し、復帰できるような雰囲気作りを心がけます。
- ・柔軟な働き方、効率化を促進するための発想力とテクノロジーを活用するスキルを身に付けます。

### III 社会・政治について

私たちは、

- ・大切なことを決める場に多様性が生まれるように、選挙についても関心を高め、投票します。
- ・広い視野をもって世界の状況を知るとともに、自分たちが暮らす地域の問題にも目を向けていきます。
- ・誰もが幸せを感じられる社会の実現のために、自分は何ができるのか、これから学びを深めていきます。

私たちは、栃木県中高生の代表として G7 栃木県・日光子ども未来サミットに集まり、男女が共に輝く社会を創るために、今、わたしたちができることについて話し合い、宣言としてまとめました。

私たちは、思い込みにとらわれず、広い視野で考え、宣言実現に向けて、わたしたちができる身近なことから行動します。

G7 栃木県・日光男女共同参画・女性活躍担当大臣会合にお集まりいただく大臣のみなさまには、ぜひ、私たちの思いを受け止め、よりよい世界を創っていただきたいです。



提供：栃木県

6月24日及び25日に開催された「G7 栃木県・日光男女共同参画・女性活躍担当大臣会合」の30日前記念イベントとして、5月27日に「G7 栃木県・日光子ども未来サミット」が開催されました。県内の男女共同参画に関心のある中・高校生12名が、男女共同参画をテーマに意見交換を行った後、世界に向けた宣言文を発表しました。子ども未来サミットに参加した佐野高等学校附属中学校3年生のお2人に、参加した感想などを伺いました。(記事は2ページをご覧ください)

# G7 栃木県・日光子ども未来サミットに参加して



宣言文を持つ  
田中 さつき さん 西島 りお さん

○参加のきっかけを教えてください。

(田中) 学校で応募の話聞き、チャレンジしてみようと思いました。

(西島) 学校代表として何かに挑戦したいと思い、参加しました。

○実際に参加した感想を教えてください。

(田中) 貴重な経験で楽しかったです。これまでは「参画」という言葉は難しいイメージで、男女共同参画についてあまり深く考えたことはありませんでした。「アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)」という言葉や、G7の中では日本が最もシエンダーギャップがあることなど、様々なことを知ることができたので、参加してよかったと思いました。

(西島) 男女共同参画は女性だけを向上させるというイメージでしたが、参加する中で男女両方も、平等にすべきことはしっかり取り組んでいると感じました。また、「イクメン」や「カジダン」という言葉があるのは日本だけで、他国では個性を尊重し家事を分担していることなどを知り、世界と日本の差を感じました。そのような気づきも含めて宣言文をつくりました。

○「子ども未来サミット」に参加してからの変化や今後について

(田中) 参加しなければ知らなかったであろう知識を身につけられたことで、テレビや新聞での男女共同参画についての話題を身近に感じるようになりました。

(西島) 発表した経験を、これからの学校生活に活かしていきたいです。そして、今回のように、学んだことを社会にアピールできる場にまた立てたらと思います。

インタビューでも落ち着いて自身の体験や考えを述べるお2人の姿が印象的でした。  
宣言文について、詳しく内容を知りたい方は、栃木県のHPからご覧ください。

## NPO 法人植野たすけあいインタビュー

シリーズ  
輝く人たち

○活動してよかったことや、苦勞したことを教えてください。

良かったことは、利用者の喜んでいる顔を見られることです。ボランティアには利用料をお支払いしているのですが、利用者も気を遣わず利用しやすく、ボランティアをする側もやりがいを持てると思います。

○今後の活動についてお聞かせください。

今後はさらに高齢者が高齢者を見守るようになると思います。必要最低限のサービスだけでなく、生活を豊かにしたい方のために、介護保険外のサービスを充実させていきたいと考えています。

○設立の経緯

もともと、植野地区の社会福祉協議会として日常生活支援事業を行っていました。持続可能な活動にするためにNPO法人化し、「できる人ができるときに活動しよう」と始めました。現在は、旧佐野市内を対象範囲として活動しています。

○会員はどれくらいいますか。利用できるのはどのような方ですか。

理事や正・賛助会員のほか、一般のボランティアが86名登録しています。利用登録者は原則として要支援2、要介護2までの65歳以上の方で現在500名ほど登録いただいています。

○どのような内容の業務が依頼されますか。



塚田理事長







買い物支援の様子

問合せ：植野たすけあい  
☎055-52002

# 政治分野における男女共同参画について考えよう

佐野市議会の女性の人数と全体に占める割合を知っていますか？

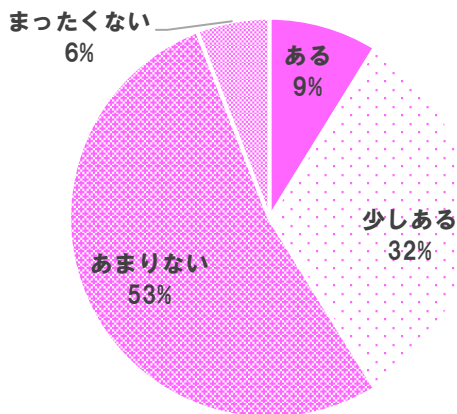
近隣市と比較しても、女性の割合が低い状況です。(令和5年5月1日現在)

<b>足利市</b>		9/24人	<b>37.5%</b>
<b>栃木市</b>		3/28人	<b>10.7%</b>
<b>小山市</b>		6/28人	<b>21.4%</b>
<b>佐野市</b>		1/24人	<b>4.2%</b>

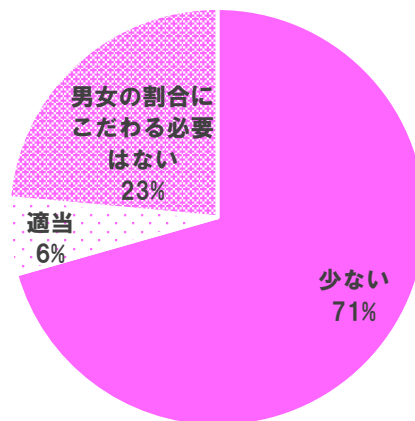
## 佐野短大生にアンケート！

佐野日本大学短期大学に通う学生34名に政治への関心や女性の政治参画についてアンケートを行いました。

政治に興味がありますか？



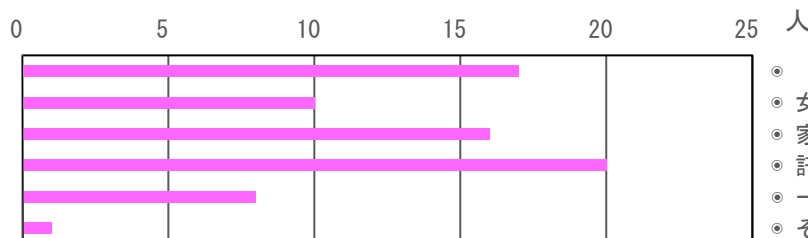
佐野市の女性議員の人数についてどう思いますか？



※「多い」は0%

「女性の議員が増えるために必要なこと」として、子育て環境の整備や性別役割意識をなくすことが必要という意見が多くありました。その他、意見として「女性の立場でないと見えない問題もあると思う」「女性がもっと参加しやすくなると良い」「若い人も政治について理解できるように、わかりやすく伝えてほしい」などがありました。

女性の議員が増えるためには、何が必要だと思いますか？（複数回答可）



- ◎ 「政治は男性のもの」という性別役割意識をなくすこと
- ◎ 女性自身が政治に関心を持ち、参画する意識をもつこと
- ◎ 家族や周囲の理解やサポート
- ◎ 託児所や授乳室など、子育てと両立できる環境整備
- ◎ 一定数を女性議員とする制度（クォータ制など）や仕組み
- ◎ その他

ジェンダーギャップ指数（2023年） 日本は政治分野で146か国中138位！

国では第5次男女共同参画基本計画において、「あらゆる分野での女性の参画拡大を進める」としており、統一地方選挙の候補者に占める女性の割合を2025年に35%にすることを目標としています。各分野の中でも、特に政治分野における女性の参画拡大は重要であり、多様な人材が意思決定過程に積極的に参画し責任を担うことが期待されています。



# 男女共同参画ネットワークさの 定期総会が開催されました



新役員の皆さん

令和5年度男女共同参画ネットワークさの定期総会が城北地区公民館にて5月22日開催され、44名の会員出席のもと、すべての議案が承認されました。総会の中での質疑応答では、積極的な意見交換や提案がなされ、一会員として会の運営を担っているという責任が何え、今後の活動の原動力になるのではないかと感じました。

総会終了後の研修では、朗読「ひびき」の皆さんによる「小曽根俊子の詩と人生 命よ燃えろ心よ光れ」の詩の朗読がありました。同郷の小曽根俊子さんは知っていても、どんな人生を送り、どんな作品を残したのか？オカリナの演奏を交えた



朗読「ひびき」による研修会

皆さんの気持ちのこもった演出が心に響き、佐野で生まれた小曽根俊子さんの「いのちの声」が伝わってきました。そして、今回の公演で佐野市の誇るべき女性の一人であることを再認識できました。総会後の研修は、各団体相互の活動への理解、会員同士のコミュニケーションを深めるためにもとても良い機会になっているのではないかと思います。

新型コロナウイルスも緩和する中、令和5年度は男女共同参画ネットワークさの取り組みも活発になり、加入団体と会員が互いに協力し合える環境がつけられていくことと思います。

## こども食堂ってどんなところ？

～佐野市社会福祉協議会より～

こども食堂とは、こどもが1人でも行ける無料または低額の食堂で、あったかごはんを提供し、孤食の解消や食育を行う場のことをいいます。「こども食堂」と聞くと、「貧困の子どもがいくところ」というイメージがあるかもしれませんが、「地域の交流の場」としての役割が強くなっており、世代間の交流ができる、みんなが楽しく集えるとっても素敵な場所なんです！こども食堂にお手伝いに行くと、地域の方とお話ししながらごはんを作って、そのあと、子どもたちとサツマイモを掘り、一緒にごはんを食べて…など「気軽に行けて、世代・国籍等を問わず楽しく過ごせるこんな素敵な場所が佐野市内にもあるんだ！」と新しい発見もあると思います。

今後、そのような活動がより活発になり、子どもたち、また地域の人たちが家以外でもほっとできる場所がもっとたくさんできるよう、佐野市社会福祉協議会でも、市内のこども食堂等の活動をしている団体さん同士で交流もてる情報交換会を定期的で開催していきます。話を聞いてみたいという方がいらっしゃいましたら、お気軽にご連絡ください。

【問合せ：地域福祉推進係（担当）金子 ☎22-8136】



### 【編集後記】

「こども未来サミット」へ参加されたことは、男女共同参画社会を担う上で貴重かつ素晴らしい経験であったと思います。学び得た知識をどんどん広げ、生かせる場を増やしていつてもらいたいと思います。

今回よりパレット編集に携わることになりました。男女共同参画社会に役立つ情報紙として皆さんの記事で情報満載にしていきます。

### 【編集委員】

今井美砂子 黒澤千賀子  
大室佐知子 高橋晴美 中里聖子

パレット第27号【2023年8月発行】

編集発行 佐野市 市民生活部人権・男女共同参画課  
〒327-0398 栃木県佐野市田沼町 974-3  
電話 0283(61)1140 FAX0283(61)1142  
E-mail: danjokakari@city.sano.lg.jp